

発寒ひかり
保育園だより

2019年
7月号

巻頭言

先日、私の育てたカブトムシを保育園に連れてきました。子どもたちは大喜びで、恐るおそる触ろうとする子、相撲を取らせたり、「おなかに毛がはえてる」と、発見を教えてくれる子など、反応は様々です。しかし、中には、むりやりカブトムシ同士を押し付けたり叩いたり、乱暴に扱う子もいました。私はその都度、「おもちゃじゃなくて、生きている命だよ」と伝えていきます。

先日、とまとファミリーで飼っていたアオムシが蛹になり、羽化を迎えました。ところが、子どもたちの乱暴な扱いに羽を痛め、すぐに死んでしまいました。担任のあやか先生は、2歳以上の子どもたちをホールに集め、「どんな小さな生き物でも、みんなと同じ命なんだよ」と、命の大切さについて熱く伝えました。子どもたちは真剣な表情で聞いていました。

当園では、命について考えてもらえるよう、様々な取組をしています。子どもたちは、こんな身近な存在からも**命の大切さ**、そして、**生死**について考えるようになっていくのです。

最近、子どもたちの命を脅かす痛ましい事件・事故等の報道に、胸が締め付けられる思いです。大津市の事故では、子どもたちからも「保育園の子、死んじゃったんだよね」という声が聞かれました。子どもたちなりに、事故のことを考えていたのです。保育園における**最優先事項は、安全の取組**です。報道を受け、園周辺の危険箇所の確認や、事故・ヒヤリハットの検証と対策、安全管理マニュアルの改訂など、早急に対応しました。子どもたちが命の大切さについて学ぶと同時に、私たち大人がその命を守るために、保護者の皆さんと共に最善を尽くしたいと思います。

副主任保育士 家村 維人